

文22 それをすみだ川といふ。

文23 その川のほとりに①群れゐて②

思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠く

も⑥来⑦にけるかなと⑧わび合へ

⑨るに、渡し守、「はや舟に乗

れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、

乗りて渡ら⑪むとするに、みな

人⑫ものわびしくて、京に思ふ

人⑬なきにしもあらず。

問一 傍線部①の終止形は「群れゐ

る」である。訳として正しいのは？

ア 群れて立つ イ 群れて座る

文22 それをすみだ川といふ。

文23 その川のほとりに^①群れゐて^②

思ひやれ^③ば、^④限りなく^⑤遠く

も^⑥来^⑦にけるかなと^⑧わび合へ

^⑨るに、渡し守、「はや舟に乗

れ。日も暮れ^⑩ぬ。」と言ふに、

乗りて渡ら^⑪むとするに、みな

人^⑫ものわびしくて、京に思ふ

人^⑬なきにしもあらず。

問二 傍線部②「思ひやれ」(終止

形は「思ひやる」)について

(一)次のどちらの意味か。

ア 相手の立場に立って考える

イ 遠くに思いを馳せる

文22 それをすみだ川といふ。

文23 その川のほとりに^①群れゐて^②

思ひやれ^③ば、^④限りなく^⑤遠く

も^⑥来^⑦にけるかなと^⑧わび合へ

るに、^⑨渡し守、「はや舟に乗

れ。日も暮れ^⑩ぬ。」と言ふに、

乗りて渡ら^⑪むとするに、みな

人^⑫ものわびしくて、京に思ふ

人^⑬なきにしもあらず。

(2) 終止形は「思ひやる」で、

「ず」をつけると「思ひやら

ず」になり、「ず」の上がア段

になるので、四段活用(ア―イ―

ウ―ウ―エ―エ)である。この「思

ひやれ」は何形か。可能性があ

るものを二つ、次の中から選べ。

ア未然 イ連用 ウ終止 エ連体

才已然 カ命令

文23 その川のほとりに^①群れゐて^②
思ひやれ^③ば、^④限りなく^⑤遠く^⑥
も来^⑦にけるかなと^⑧わび合へ^⑨
るに、渡し守、^⑩「はや舟に乗
れ。日も暮れぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら^⑪むとするに、みな
人^⑫ものわびしくて、京に思ふ
人^⑬なきにしもあらず。

問三 傍線部③の「ば」は次の三
つの訳を持つ。この場合はど
れ？

アもしくならば

※未然形＋「ば」

イゝので

※已然形＋「ば」で、

「ば」の上の出来事が原因で、

「ば」の下が出来事が起こった。

ウゝするとゝしたところ

※已然形＋「ば」で、

「ば」の上の出来事のあと、

「ば」の下が出来事が

たまたまが起こった。

文23 その川のほとりに①群れゐて②
思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠く
も⑥来⑦にけるかなと⑧わび合へ
⑨るに、渡し守、「はや舟に乗
れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら⑪むとするに、みな
人⑫ものわびしくて、京に思ふ
人⑬なきにしもあらず。

問四 傍線部④・⑤は同じ品詞の語
である。次のどの品詞か。

ア	名詞	イ	動詞	ウ	形容詞
エ	形容詞	カ	助動詞		

文23 その川のほとりに①群れゐて②
思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠く
も⑥来⑦にけるかなと⑧わび合へ
るに、⑨渡し守、⑩「はや舟に乗
れ。日も暮れぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら⑪むとするに、みな
人⑫ものわびしくて、京に思ふ
人⑬なきにしもあらず。

問五

傍線部⑤のように、「にけ
り」とある場合は、だいたい
の場合、「に」（完了の助動
詞「ぬ」が活用したもの）＋
「けり」（過去の助動詞）で、
「くってしまった」と訳すが、
傍線部⑤もこれだ。この
「に」は完了の助動詞「ぬ」
の何形か。（完了の助動詞
「ぬ」はナ変型「な」に「ぬ」
る「ぬれ」ね」で活用する。）

ア未然
才已然

イ連用
カ命令

ウ終止

エ連体

文23 その川のほとりに^①群れゐて^②
思ひやれ^③ば、^④限りなく^⑤遠く
も^⑥来^⑦にけるかなと^⑧わび合へ
^⑨るに、渡し守、「はや舟に乗
れ。日も暮れ^⑩ぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら^⑪むとするに、みな
人^⑫ものわびしくて、京に思ふ
人^⑬なきにしもあらず。

問六 傍線部⑥の読み方は次のどれ
か。次の二点をふまえて答え
よ。

―「来」は力変で「こきくくる」
くれここよ」と活用する。
2 傍線部⑥の下には、連用形につく
助動詞「ぬ」がある。

ア き イ く ウ こ

問七 傍線部⑧「わび」(終止形は
「わぶ」)は次のどちらの意
味か。

ア わびしく思う イ つらく思う

文23 その川のほとりに①群れゐて②
思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠く
も⑥来⑦にけるかなと⑧わび合へ
るに、⑨渡し守、「はや舟に乗
れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら⑪むとするに、みな
人⑫ものわびしくて、京に思ふ
人⑬なきにしもあらず。

問八 傍線部⑨の終止形は「り」で
完了の助動詞「たり」と同様、
次の二つの意味を持つ。ここ
ではどちらの意味で使われて
いるか。

ア完了（くしてしまった・くた）

※くの瞬間に注目

イ存続（くている・くである）

※くの後の状態に注目

文23 その川のほとりに^①群れゐて^②
思ひやれ^③ば、^④限りなく^⑤遠く^⑥
も来^⑦にけるかなと^⑧わび合へ^⑨
るに、渡し守、^⑩「はや舟に乗
れ。日も暮れ^⑪ぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら^⑫むとするに、みな
人^⑬ものわびしくて、京に思ふ
人^⑭なきにしもあらず。

問九

傍線部^⑩は助動詞だが、
「ぬ」という形になる助動詞
は次の二つある。この場合は
どちらか。

ア完了（ゝてしまった・た）の

「ぬ」の終止形

- ・ なにぬぬるぬれね
- ・ 連用形につく。
- ・ 下に推量の助動詞があるときは
強意「きつと」の意味になる。

イ打消（ゝない）の「ず」の連体形

- ・ ず・ざらずざりずぬ・ざる
- ・ ね・ざれざれ
- ・ 未然形につく。

文23：渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れ^⑩ぬ。」と言ふに、乗^⑪りて渡^⑫らむとするに、みな人^⑬ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。

問五 傍線部⑤「む」意味はどれ？

◎「む」＋「名詞か名詞省略」

ア仮定（としたら）

検討してる

例 僧になさむ「こと」は苦し。

イ婉曲（訳不要）

検討してない

例 し出さむ「こと」を待つ。

※柔らかにするための「む」

◎「む」（下には名詞は絶対来ない）

提案してない

自分以外の未来

ウ推量（だろう）

例 雨降らむ。

エ意志（しよう）

例 我肉食はむ。

自分の未来

※「むとす」はウかエだが、

この見分け方は使えない。

提案している

才勧誘（したらどうか）

相手あり

例 一郎、花を見てこそ帰らめ。

力適当（のがよい）

相手なし

例 子はなくてありなむ。

文23：みな人^⑫ものわびしくて、京
に思ふ人^⑬なきにしもあらず。

問十一 傍線部⑫「ものわびしく」に
ついて

(1) 次のどちらの意味か。

ア なんとなくわびしい
イ なんとなくつらい

(2) 活用の種類は？

ア ク活用 イ シク活用
ウ ナリ活用 エ タリ活用

問十二 傍線部⑬について

(1) 「なき」の終止形は「なし」で
ある。品詞は何になるか。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞
エ 助動詞

(2) この部分の訳は？

ア いない イ いないわけではない
ウ いるわけではない エ いる

このページは空白ページです